

前期終業式 TV 集会 校長講話 10月9日 金曜日

明るい雰囲気にも包まれている高洲第三小学校。私たち教職員は「うちの学校は、いい学校です！」と胸を張って言うことができます。とはいえ、課題がないわけではありません。「わるぐち」や「うそ」「いじわる」や「失礼な言動」このようなことが皆無ではありません。実は、その時は「成長のチャンス」です。機を逃さずに話をして「よき出会い」に恵まれ「よき人生」が送れるように支援していきたいものです。

今日は、動画を作成して子供たちに呼びかける内容の話をしました。ご家庭でも話題にしていただけたら嬉しいです。高洲三小が子供たちの成長の場としてさらにステップアップできるよう、力を合わせてまいりましょう。

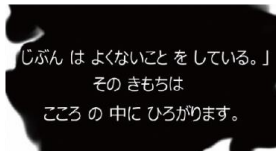
※注釈は大人用に加筆したものです。



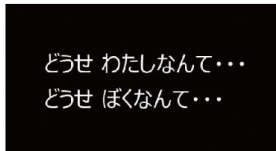
子どもたちの心を、コップの中の水に例えて話をします。  
はじめは誰もが、無色透明、純真無垢です。



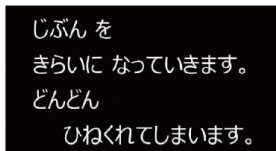
「悪口」や「いじわる」を重ねると、水＝心が濁ってきます。  
言われたり、されたりした人はもちろん、言ったり、やったりした本人も、傷ついているのです。



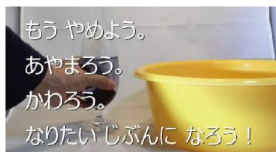
たとえ、親や先生にバレなくても、だれも見えていなくとも「本人」は「自分が良くないことをしている」ことを心の底では、わかっています。罪悪感といわれるものがひろがります。



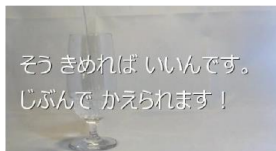
やがて、自己肯定感、自己有用感が失われていきます。親や先生に叱られたり指導を受けることがふえて、一層自分を大事な存在としてとらえられなくなってきます。



「どうせ」がきっかけになり、子どもたちは素直な行動や考え方をすることが、難しくなってきます。「いまさら」かっこ悪くて「良い子」には戻りにくいです。でも、けっして手遅れではありません。



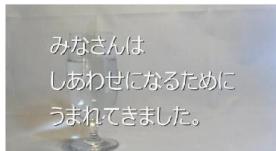
自分で「変わろう」「やめよう」そう思ったときから人は必ず変われます。



ひどく叱られたから、ぶたれたから、怖い思いをしたから・・・  
このようなきっかけではなく、「自分で」決めることが何より大切です。「～しないと、〇〇になってしまうぞ」そのような賞罰的なアプローチでは子どもは育ちません。



「別に俺なんて、もう・・・」そう口にする生徒に大勢あってきました。  
三小の子たちに、こんなセリフを吐かせるわけにはいきません。



子どもたちも、私たちも「しあわせになる」ために生まれてきました。  
自分の心の有り様を決めるのは「自分」以外にありません。  
ご自身にも当てはまることがあったら「変わろう」「できるよ」と励ましてください。そして「私も」と子供の前で決意を話してください。  
同じ「人」としての姿勢を示すことこそ、何よりの教育です。